



# 学内広報

No.1293

2004.6.23  
東京大学広報委員会



五月祭開催される (3ページに関連記事)

## CONTENTS

一般ニュース .....	2	掲示版 .....	6
名誉教授の称号授与		東京大学学生表彰「東京大学総長賞」の推薦受付について、第2回東京大学学生発明コンテスト、東京大学AGS研究会2004年度ワークショップの開催案内、東京大学海洋研究所「海の日」一般公開について、第9回人工物工学コロキウムー加速するサービス工学ー、初心者水泳講習会の開催、保健体育寮（スポーティア）の利用案内	
キャンパスニュース .....	3	淡青評論「地域社会とキャンパス」.....	12
五月祭開催される			
部局ニュース .....	4		
学生・教職員の交歓会を植物園で開催、教育学研究科で外国人留学生懇談会開かれる、パラリンピック水泳代表・成田真由美さんが教育学部で特別講義			

人事部

名誉教授の称号授与

6月15日（火）に開かれた教育研究評議会で、東京大学名誉教授称号授与規則により、次の元教授80名に名誉教授の称号を授与することになった。

部局	氏名	担当講座等
大・法	菅野和夫	労働法講座
医	伊賀立二	附属病院薬剤部
大・医	井街宏	医用生体工学講座
大・工	白木靖寛	物理工学講座
大・工	柴田浩司	マテリアル環境講座
大・工	近藤駿介	システム設計工学講座
大・工	矢川元基	システム設計工学講座
大・工	田中正人	機械システム汎論講座
大・工	大坪英臣	調和システム講座
大・工	野本敏治	調和システム講座
大・工	庄司正弘	機械工学汎論講座
大・工	森地茂	社会基盤プランニング講座
大・工	渡邊晃	社会基盤サイエンス講座
大・工	金田博彰	地球環境システム工学講座
大・文	金井新二	宗教学宗教学講座
大・文	木村靖二	西洋史学講座
大・文	佐々木健一	美学芸術学講座
大・理	森澤正昭	附属臨海実験所
大・理	藤川和男	素粒子物理学講座
大・理	近藤矩朗	進化多様性生物学講座
大・理	塚田捷	広域理学講座
大・農	箕輪光博	森林資源環境科学講座
大・農	澤崎徹	附属牧場
大・農	佐藤洋平	地域環境工学講座
大・農	小林正彦	資源創成生物学講座
大・農	日比忠明	基礎生物学領域講座
大・農	坂齊	附属農場
大・農	大賀圭治	国際開発環境学講座

部局	氏名	担当講座等
大・農	伏谷伸宏	水圏生命科学講座
大・農	北原武	生物生産化学講座
大・農	古田公人	森林生命環境科学講座
大・農	大橋邦夫	附属演習林
大・済	若杉敬明	会計・財務講座
大・済	堀内昭義	財政金融講座
大・養	藤井貞和	言語態分析講座
大・養	高橋正征	自然体系学講座
大・養	小川浩	言語科学基礎理論講座
大・養	大森正之	環境応答論講座
大・養	山本吉宣	国際関係論講座
数理	落合卓四郎	大域幾何学講座
創域	田村昌三	環境システム学講座
創域	渡邊公綱	構造生命科学講座
創域	澤田嗣郎	新物質・界面科学講座
創域	佐久間健人	マテリアル・機能設計学講座
創域	正路徹也	環境システム学講座
創域	木村英紀	複雑システム講座
創域	桂井誠	システム電磁エネルギー講座
創域	雨宮昭南	機能生命科学講座
創域	松原望	国際環境基盤学講座
創域	鳳紘一郎	集積電子・光デバイス学講座
創域	板生清	人工環境学講座
創域	平井百樹	機能生命科学講座
創域	北澤宏一	新物質・界面科学講座
情理	井上博允	知能機械構成学講座
情理	田中英彦	電子情報システム学講座
医科	榊佳之	附属ヒトゲノム解析センター
医科	新井賢一	基礎医科学部門
医科	浅野茂隆	附属先端医療研究センター
医科	森茂郎	癌・細胞増殖部門
地震	兼岡一郎	地球ダイナミクス部門
地震	笠原順三	附属地震地殻変動観測センター

**学生部**  
**五月祭開催される**

第77回五月祭は、5月28日（金）午後の学内公開及び5月29日（土）、30日（日）の一般公開と計3日間にわたり本郷キャンパスで開催された。講演会、研究発表の展示、音楽演奏、趣向を凝らした各種パフォーマンスの披露や模擬店等325件の企画が催された。

一般公開日の5月29日（土）、30日（日）とも夏日を思わせる素晴らしい晴天に恵まれ、来場者も両日合わせて約59,000人（昨年約46,000人）が訪れた。



キャンパスを賑わした模擬店

キャンパスの各所からヤクソバやかき氷の呼び声がこだまし、コーラスやバンドによる演奏が賑わした。また、前衆議院議員の塩川正十郎氏による講演、奇術愛好会によるステージマジックショー、東大ガイダンスなどいずれの企画も満席となり、三四郎池には静寂と涼を求める来場者が集まった。御殿下グラウンドではラクロスとサッカーの招待試合が行われ、接戦を繰り広げた。なお「メイフェスティバルアワード2004」には、地文研究会

部局	氏名	担当講座等
地震	東原 紘道	地球計測部門
地震	深尾 良夫	附属海半球観測研究センター
東洋	濱下 武志	東アジア研究部門
社研	宮崎 良夫	比較現代法部門
生研	林 宏爾	物質・生命部門
生研	吉澤 徹	情報・システム部門
生研	須藤 研	人間・社会部門
生研	橘 秀樹	人間・社会部門
史料	黒田 日出男	画像史料解析センター
史料	橋本 政宣	近世史料部門
史料	宮地 正人	近世史料部門
分生	大坪 榮一	分子情報・制御部門
宇宙	吉村 太彦	超高エネルギー強相互作用第二部門
物研	石川 征靖	新物質科学研究部門
物研	福山 秀敏	物性理論研究部門
物研	藤井 保彦	附属中性子科学研究施設
物研	後藤 恒昭	極限環境物性研究部門
海洋	杉本 隆成	海洋生物資源研究部門
ア生	飯山 賢治	生物環境評価研究部門



五月祭 ラクロスの招待試合（御殿下グラウンド）



「メイフェスティバルアワード2004」を受賞した地文研究会天文部による自作プラネタリウム

天文部の自作プラネタリウムが昨年の駒場祭グランプリに引き続いて選ばれた。

五月祭の実施にあたっては五月祭常任委員会が中心となり企画団体の受付を始め、物品の配給、衛生管理、構内警備等を入念に行った。さらに環境に配慮したゴミの分別収集を今年も実施するなど細部にわたる努力により今年も無事終えることができた。

### 大学院理学系研究科・理学部 学生・教職員の交歓会を植物園で開催

大学院理学系研究科・理学部の定例行事となっている学生と教職員の交歓会（第40回）が5月31日（月）15時から理学系研究科附属小石川植物園において開催されました。

数日前まで雨の予報でしたが、当日は30度を越す暑さと晴天に恵まれ、新緑の園内にはおよそ500名の学生・教職員が集まりました。

岡村研究科長、邑田植物園長の挨拶に始まり、和達評議員の発声で交歓会が開始されました。

学生・教職員はもとより小柴先生をはじめ名誉教授の方々にも多数参加いただき、芝生には飲み物などを手に学科・専攻を超えて語り合う懇親の輪が幾重にも広がり新緑を満喫しながら、和気藹々とした楽しい交歓のひと時を過ごしました。



理学系研究科附属小石川植物園での交歓会

### 大学院教育学研究科・教育学部 教育学研究科で外国人留学生懇談会開かれる

恒例の外国人留学生懇談会が、5月19日（水）の17時30分より教育学部1階のラウンジにおいて行われた。

現在、教育学研究科には9ヶ国、65名の外国人留学生在籍している。本懇談会には、普段は一堂に会する機会が少ないためか、あいにくの雨にもかかわらず、留学生、チューターを始め、外国人客員研究員、教職員など約80名が参加、教育学部の小さなラウンジは熱気につつまれた。



新入生自己紹介

佐藤学研究科長の挨拶、武藤評議員の乾杯により始まった会は、歓談の後、本年度4月入学の留学生紹介とスピーチが行われた。母を慕う娘の心情をうたったモンゴル民謡、中国の最新流行歌など留学生による多彩なお国自慢の披露で、会が最高の盛り上がりを見せると、飛び入り参加の日本人学生や教職員の余興もみられた。あまりに短く感じられた2時間を惜しみつつ、なごやかに閉会した。



先生といっしょに

大学院教育学研究科・教育学部  
パラリンピック水泳代表・成田真由美さん  
が教育学部で特別講義



パラリンピックの金メダルを学生らに披露

6月9日（水）に、赤門総合研究棟において、9月のアテネ・パラリンピック水泳代表で、1996年のアトランタ大会で金メダル2個、2000年のシドニー大会で金メダル6個を獲得した成田真由美選手（33）が、「女性とスポーツ―パラリンピックの現場から―」と題した特別講義を行った。

教育学部の「身体教育学概論」担当の武藤芳照教授が、過去3回水泳五輪代表チームのチームドクターを務めるなど、水泳界と関係が深く、成田選手とも以前より交流があったことから、今回の特別講義が行われる運びとなった。



車イスで講義を行う成田選手

子どもの頃、かけっこが得意だった成田選手は、13歳の時に横断性脊髄炎にかかり、下半身がまひし、家族とのつらいやりとりもあったが、次第に障害を受容した。リハビリテーションを経て23歳からそれまで縁のなかつ

た水泳を始めた。その後、交通事故で頸椎を傷め、手指の運動障害が残ったが、今は「可愛そうな人が泳いでいるのではなく」、競技選手としてきびしいトレーニングに励んでいる。

障害者を現実社会がどのように扱っているのかという悲しいエピソードがある一方、まわりの人々に支えられているのだという思い、もし車イスの生活でなかったら、こんな周りに色々な人が居るんだということを知ることでもなかったなど、貴重な中途障害者の実体験と率直な意見が述べられた。

そして、自分なりの目標に向かって、ふだんの積み重ねが大事であること、「脚が動かない分、心をふんだんに動かしていきたい」こと、「失ったものより、得たものの方が多く、重い」と感じていることを結論として、講義を終えた。

教室には、1限目の講義であったが、学部生、大学院生並びにバリアフリー支援室の職員ら50名あまりに加え、多くの報道陣も参加し、成田選手の明るくたくましく、前向きな姿勢に、一様に感銘を受けていた。

佐藤学教育学研究科長・学部長が、話の中に数多くの教育学的事象がちりばめられていたこと、東京大学キャンパス全体のバリアフリーの重要性を示しつつ、障害者を適正に受け入れられない社会そのものが障害を有していること等を述べつつ、謝辞を述べた。

今後も、教育学部としては、学生への教育を通して、社会とのつながりを一層広げていきたいと考えている。



企画責任者の武藤芳照教授（左）佐藤学教育学部長（右）と共に

## 学生部

### 東京大学学生表彰「東京大学総長賞」の推薦受付について

#### 募集

本学の学生を対象として、学業、課外活動、各種社会活動、大学間の国際交流等の各分野において、「優れた評価を受けた」「優秀な成績を収めた」「本学の名誉を高めた」などの顕著な功績のあった個人又は団体に、総長が表彰を行う「東京大学総長賞」が平成14年度から設けられています。

この表彰は、本学教職員・学生からの推薦に基づき、「東京大学学生表彰選考委員会」（以下「選考委員会」という。）が選考にあたり総長が表彰するものです。

推薦にあたっては、個人・団体ともに随時受け付けることとしており、別記様式1・2による候補者推薦書（別記様式1・2は、東京大学ホームページをご覧ください。）を学生部学生課課外文化係（内線22529）まで提出することとしています。

選考委員会では、推薦された候補者の中からその内容を審査のうえ、「東京大学総長賞」として相応しいものが決定されます。

表彰は、原則として10月（秋）及び3月（春）の年2回実施することとしており、このたび、平成16年度の推薦基準が以下のとおりまとめられ、推薦の受付を行っています。

今年度第1回表彰の授与式は、10月19日（火）に駒場Iキャンパスの数理科学研究科大講義室で行うことを予定ですが、第1回の推薦締切りは9月3日（金）となります。

なお、第2回表彰は平成17年3月末を予定していますが、日程の詳細は未定であり、決まり次第再びお知らせします。

#### 東京大学学生表彰「東京大学総長賞」の推薦基準

- (1) ①学業において、研鑽に励み、他の学生の範となった個人又は団体  
②学業において、学界等により優れた評価を受け、本学の名誉を高めた個人又は団体
- (2) 課外活動において、国内外の各種スポーツ、競技、演奏、展示、発表等で優秀な成績を収め、本学の名誉を高めた個人若しくは団体又は課外活動を支援し、課外活動の充実と振興に著しい貢献をした個人若しくは団体
- (3) 環境保全、災害救援、社会福祉、青少年育成、海外援助協力等の各種社会活動において、活動実績

が認められ、他の学生の範となった個人若しくは団体又は社会的に優れた評価を受け、本学の名誉を高めた個人若しくは団体

- (4) 大学間の国際交流において、相互理解と友好関係を深め、本学の国際交流の発展に著しい貢献をした個人又は団体
- (5) その他、これらに準ずるもので、「東京大学総長賞」に相応しい貢献があった個人又は団体  
上記基準による推薦者については、次のとおりとする。

基準(1)① 学部学生については学部長  
大学院学生については研究科長・教育部の部長

基準(1)②及び基準(2)～(5) 自薦、他薦を問わない。

また、在学中の学業、課外活動、社会活動等の評価、活動実績等が上記基準に該当する者は、卒業又は修了後1年以内に限り選考の対象とする。

〔参考〕 平成15年度東京大学学生表彰「東京大学総長賞」受賞者

- 第1回 平成15年9月30日（火） 弥生講堂  
新井裕巳 農学生命修士2年  
山岳スキー未滑走斜面滑降初成功  
（鹿島槍北壁、北海道ニペソツ山東壁）
- Cube Sat プロジェクト超小型衛星Cube Sat打ち上げ成功
- 囲碁部 第46回（平成14年度）全日本学生選手権優勝等優秀な成績
- 運動会 少林寺拳法部  
平成15年関東学生大会優勝等優秀な成績
- 環境三四郎 キャンパスの美化、啓蒙活動等、環境問題への自主的活動

- 第2回 平成16年3月25日（木） 大講堂  
前田恵理子 医学部（卒業）  
解剖実習用マニュアル作成
- 岡 賢一 経済学部4年 経済学部最優秀成績  
里見龍樹 教養学部4年 教養学部最優秀成績  
丹沢秀樹 新領域修士2年  
オープンヨーロッパ身障者自転車競技大会パイロット2位入賞、アテネパラリンピック出場権獲得
- 箕嶋幸範 医学系博士3年  
細胞分裂における最後のステップ解明

チャヤニス マヌチパロム 工学系博士（修了）  
国際協力事業団（JICA）第6回国際協力大  
学生論文コンテスト特選受賞  
山口英斉 理学系博士3年  
反陽子を生成する新装置の建設に貢献。生成  
された反陽子の精密な測定  
高野順平 農学生命博士3年  
生物界初ホウ素トランスポーター遺伝子発見  
音楽部コールアカデミー 卒業式、入学式への協力。ア  
ジアの大学との合唱交流  
地文研究会天文部 大規模、高性能な完全自作プラネタ  
リウムの製作、及び無料公開

平成17年1月7日（金）

表彰式

発明内容：発明の分野や内容、実施の度合は問いません。  
但し、「特許法上の発明」（自然法則を利用し  
たアイデアで、産業上利用できるもの）に該  
当しない場合は審査対象にならない可能性が  
あります。

提出書類：

応募用紙表紙（様式A）……………2部  
発明説明書（様式B、A4版タテ記述自由形式）…2部  
発明確認シート（様式C）……………1部  
応募用紙の様式A、Bの内容を含む電子媒体 ……1部  
※応募用紙は、以下のホームページからダウンロード  
できます。第1回の本コンテストの詳細も見ること  
ができます。

<http://hatsumei.iis.u-tokyo.ac.jp/>

## 生産技術研究所 第2回東京大学学生発明コンテスト

### 募集

生産技術研究所では昨年に引き続き発明コンテストを  
行います。東京大学の学生であればどなたでも参加でき  
ますので、皆様ふるって応募してください。

募集主旨：知的生産活動により得られた新規アイデア  
を個人の内に秘めておくばかりでなく、新規  
性の権利を明確に主張できることが、これか  
らの知財立国を支える研究者に要求されてい  
ます。研究者としての第1歩を踏み出したば  
かりの柔軟な思考を持つ学生諸君に、そのよ  
うな権利主張を行うトレーニングの機会を与  
えることを目的として発明コンテストを企画  
しました。このような権利主張の機会を通じ  
て、現在は漠然としたイメージしか抱かれて  
いないであろう、知的財産権の理解を深めて  
いただくことを期待しています。

応募資格：東京大学の学生（学部学生・大学院学生）

応募期間：7月1日（木）～8月31日（火）（必着）  
※応募用紙は5月中旬から配布いたします。

日 程：平成16年10月中旬  
書類審査終了 予備審査結果の通知  
平成16年11月27日（土）  
本審査 プレゼンテーション  
平成16年12月上旬  
審査結果の通知

審 査：生産技術研究所（産学連携委員会）、財団法人  
生産技術研究奨励会（TLO）、弁理士の関  
係者で行う予定

※審査においては、特許性よりもアイデアを  
重視する予定です。

表 彰：最優秀賞、優秀賞、アイデア賞等  
表彰式において賞状、賞金、記念品が授与さ  
れます。  
※発明者が希望する場合、優秀な発明に対し  
ては財団法人生産技術研究奨励会（TLO）  
が特許出願の協力を行います。

そ の 他：・応募する際には事前に、「応募にあたって  
のご注意」をご確認ください。  
・一人で複数の発明を応募しても構いません  
が、発明ごとに別々に応募してください。  
・応募された発明は応募した発明者に帰属し  
ますので、コンテスト終了後、審査結果に  
関わらず応募者が出願することが可能です。

主 催：生産技術研究所、財団法人生産技術研究奨励  
会（TLO）

問合せ先：〒153-8505 東京都目黒区駒場4-6-1  
東京大学生産技術研究所内  
（財）生産技術研究奨励会  
発明コンテスト係  
Tel：03-5452-6094 Fax：03-5452-6096  
e-mail: fpistlo@iis.u-tokyo.ac.jp

## 海洋研究所 東京大学海洋研究所「海の日」一般公開について

お知らせ

恒例の一般公開を下記のとおり行います。当日は講演会や展示など子供から大人まで楽しめる企画がいっぱいです。多数のご来場をお待ちしています。

記

日 時 7月19日(月・祝) 12:00~16:30  
会 場 海洋研究所  
中野区南台1-15-1  
問合せ先 電話 03-5351-6346

※ 詳しくは、ホームページをご覧ください。  
<http://www.ori.u-tokyo.ac.jp>

## AGS推進室 東京大学AGS研究会2004年度ワークショップの開催案内

お知らせ

東京大学では、マサチューセッツ工科大学(MIT)、スイス連邦工科大学、及びスウェーデンのチャルマーズ工科大学と共に、環境保全を図りつつ地球規模での持続的発展を求める国際学術協力、AGS(Alliance for Global Sustainability)活動を推進しています。

この活動の一環として、東京大学ではAGS研究会を設けて、研究・教育分野で教員、研究者、学生などの皆さんの協力のもと活発な活動を展開しています。

例年のお通り、AGS研究会のワークショップを7月20日(火)に開催いたします。今回は「持続的社会的な交通システムとは?」というタイトルでAGSの重点研究領域の一つであるモビリティに焦点をあててワークショップを開催いたします。ワークショップの講演内容につきましては下記のAGSのホームページをご参照下さい。

また、終了後懇親会を予定しておりますので、皆様のご参加をお願いいたします。

1. 日時 7月20日(火) 13:30~17:20
2. 場所 山上会館 大会議室
3. プログラム  
・開会挨拶 小宮山 宏(理事)

- ・AGSの今後の戦略方針について  
住 明正(AGS推進室長・気候システム研究センター 教授)
- ・持続可能なモビリティの実現に向けて  
原田 昇(新領域創成科学研究科環境学専攻 教授)
- ・持続可能なモビリティにおける社会的合意形成  
堀井秀之(工学系研究科社会基盤学専攻 教授)  
城山英明(法学政治学研究科 助教授)  
加藤浩徳(工学系研究科社会基盤学専攻 講師)
- ・電気と制御で走る近未来車の研究  
堀 洋一(生産技術研究所 教授)

参加ご希望の方は下記までe-mailまたはFaxでお申し込みください。

懇親会参加費は無料です。参加ご希望の方は「懇親会参加希望」とご記入下さい。

・申し込み期限: 7月9日(金)

・AGSホームページ:

<http://www.esc.u-tokyo.ac.jp/ags/news-index-j.htm>

・申し込み及び問合せ先: 浅尾(AGS推進室)

e-mail: [asao@esc.u-tokyo.ac.jp](mailto:asao@esc.u-tokyo.ac.jp)

Tel: 03-5841-7937(内線27937) Fax: 03-5841-2303



第9回の人工物工学コロキウムは、第5回に続きサービス工学を取り上げます。

今後の社会においては、人工物による量的な充足に替わる質的な充足を求めることが必要であり、このことを実現する一つの鍵は、「脱物質化」であると言われています。脱物質化とは、人工物を「サービス」を供給するためのチャンネル(道具・装置・デバイス)であると考え、価値の対象をモノからサービスへと移行させることを意味し、この内容を総括的かつ工学的に議論することを目的とする「サービス工学」は、人工物のサービス・チャンネルとしての付加価値を増大するサービス開発のための工学であると定義されます。

本コロキウムでは、サービスの工学的側面に対するさまざまな話題、サービス工学の現状を紹介することにより、旧来の工学からの脱皮をめざす人工物工学の一研究課題について討論する場を設定させて頂くとともに、「加速するサービス工学」を体感して頂きます。奮ってご参加下さい。

開催日時：7月23日(金) 13:00~17:40

会場：国際・産学共同研究センター(国際・産学棟) 5階会議室

主催：人工物工学研究センター

### プログラム

12:30 受付開始(開場)

13:00~13:15 閉会挨拶

新井民夫(人工物工学研究センター センター長)  
「人工物学におけるモノとサービス」

座長 浅間 一(人工物工学研究センター 教授)  
高橋浩之(人工物工学研究センター 助教授)

13:15~13:55

講演1. 小菅一弘(東北大学大学院工学研究科バイオロボティクス専攻)  
「サービスRT(Robot Technology)システム」

13:55~14:35

講演2. 亀丸 敏久(三菱電機(株)情報技術総合研究所データマネジメント技術部)

「ユビキタスデバイスとしてのマイクロサーバとサービス応用」

14:35~14:45 休憩

座長 藤田豊久(人工物工学研究センター 教授)  
白山 晋(人工物工学研究センター 助教授)

14:45~15:25

講演3. 浅間一(人工物工学研究センター 教授)  
「サービスメディアのための人の行動計測・分析」

15:25~16:05

講演4. 下村芳樹(人工物工学研究センター助教授)  
「サービス・エクスペローラ -2.5次産業のための設計ツール-」

16:05~16:15 休憩

座長 上田完次(人工物工学研究センター 教授)  
下村芳樹(人工物工学研究センター 助教授)

16:15~16:55

講演5. 藤本淳(先端科学技術研究センター 特任教授)  
「エコデザインとサービス工学」

16:55~17:35

講演6. 坂尾知彦(株式会社 三菱総合研究所)  
「持続可能な生産・消費とサービス工学」

17:35~ 閉会挨拶

新井民夫(人工物工学研究センター センター長)

参加申し込み・問合せ先

人工物工学研究センター内

第9回人工物工学コロキウム事務局

担当：右田、羽根、此木

〒153-8904 東京都目黒区駒場4-6-1

駒場リサーチキャンパス

Tel: 03-5453-5888 or 5891 Fax: 03-3467-0648

e-mail: colloquium@race.u-tokyo.ac.jp

http://www.race.u-tokyo.ac.jp

参加御希望の方は、氏名・所属・連絡先を明記の上、上記コロキウム事務局宛にお申し込み下さい。参加費は無料です。

どうぞお気軽に足をお運び下さい。

## 学生部

### 保健体育寮（スポーティア）の利用案内

#### お知らせ

本学の保健体育寮（愛称スポーティア）は、学生、教職員、卒業生及びその同伴者又は家族が一泊1,500円からという格安の料金で利用できる宿泊施設です。

海水浴場まで歩いて0秒のスポーティア戸田、山中湖畔でスポーツが満喫できるスポーティア山中、南伊豆の楽園・スポーティア下賀茂、乗鞍岳中腹にあり白樺に囲まれたスポーティア乗鞍及び谷川岳を望み温泉もあるスポーティア谷川、とバリエーションも豊かで、特に乗鞍山麓の秘境・スポーティア乗鞍は夏だけしか利用できませんので、この機会に利用してみたいかがでしょう。

夏の旅行に、また研究室やサークルの合宿に、是非ともご利用ください。

なお、1,500円は学部生及び附属中等教育学校生徒の場合であり、食費等は別途必要です。

#### 1. 夏期特別開寮期間及び受付開始日

##### (1) 夏期特別開寮期間

- ・ スポーティア戸田   ：  
7月23日（金）～8月22日（日）
- ・ スポーティア山中   ：  
7月24日（土）～8月27日（金）
- ・ スポーティア下賀茂   ：  
7月24日（土）～8月22日（日）
- ・ スポーティア乗鞍   ：  
7月28日（水）～8月21日（土）

\*最終日は入寮できません。なお、スポーティア谷川は通常どおり開寮しています。

##### (2) 受付開始日

- ・ 学生、教職員のみ利用  
… 6月14日（月）～
- ・ 学生、教職員とその家族・同伴者利用  
… 6月21日（月）～
- ・ 卒業生等とその家族・同伴者利用  
… 7月1日（木）～

#### 2. 運営費、食費及び施設使用料等

##### (1) 運営費（宿泊費、1泊）

- |                    |        |
|--------------------|--------|
| ・ 学生・院生            | 1,500円 |
| ・ 教 職 員            | 1,800円 |
| ・ 卒 業 生            | 1,900円 |
| ・ 家族・同伴者<br>（4歳以上） | 2,000円 |

宿泊者の最低1名が「運動会員」又は「運動会員の家族」である必要があり、上記に当てはまらない院生・教職員は同伴者の料金となります。  
なお、学部生及び附属中等教育学校生徒は除きます。

\* 卒業生及び家族・同伴者には、施設使用料（100円）が含まれます。

- |         |      |
|---------|------|
| (2) 食 費 |      |
| ・ 朝 食   | 350円 |
| ・ 昼 食   | 400円 |
| ・ 夕 食   | 650円 |

#### 3. 申込場所・時間

本 郷：御殿下記念館モール階 運動会受付窓口  
月曜日～金曜日

9：30～12：00、13：00～16：00

駒 場：教養学部等学生課課外活動係（4番窓口）  
月曜日～金曜日

9：00～12：30、13：30～16：30

#### 4. 問合せ先

学生部学生課課外体育係（内線：22509～22511）



「今年こそは泳げるようになりたいけれど、スクールで習うには時間も無いし、お金もかかりそうだし・・・」  
そのように悩んでいる方はいらっしゃいませんか？

お任せください！本郷構内の御殿下記念館で短期集中式の水泳講習会が開催されます。講師は本学教職員からなる水泳同好会（日本水泳連盟公認指導員）が、初心者の方を対象に懇切丁寧に指導いたします。

講習会の日程等は下記のとおりとなっておりますので、夏休み前のこの時期に是非泳げるようトライしてみてください。



1. 日 時 :  
7月6日（火）、8日（木）、9日（金）、13日（火）、15日（木）、16日（金） 計6日間  
各日とも18時00分～19時30分（1時間30分）
2. 場 所 :  
御殿下記念館プール
3. 対 象 :  
本学学生・教職員  
〔初心者（全く泳げない）、初級者（息継ぎができない）に限ります〕
4. 定 員 :  
20名（定員になり次第締め切ります）
5. 受講料 :  
500円（6回分）
6. 受 付 :  
6月21日（月）9時30分より  
御殿下記念館モール階 運動会受付
7. 説明会 :  
6月30日（水）18時00分～18時20分  
御殿下記念館第一研修室（記念館入口の右隣）
8. 講 師 :  
東京大学水泳同好会（日本水泳連盟公認指導員）
9. その他 :  
問い合わせは、学生部学生課課外体育係  
（内線：22509～22511）まで

### 原 稿 募 集

「学内広報」に学内の情報をお寄せください。

- ・文字数800字以内（写真がある場合は文字数を控えめにしてください。）
- ・写真には、キャプション（説明文）を添えてくださるようお願いいたします。

送付先 東京大学総務部広報課

TEL：03-3811-3393 内線：82032、22031

FAX：03-3816-3913

E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

原稿の締切は各月第1・3水曜日、配付は翌々週の火曜日です。ただし、該当日が祝日の場合や、8月、12月を除きます。

平成16年度の学内広報の発行スケジュール  
<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/soumu/soumu/kouhou.htm>

## 地域社会とキャンパス

筆者はある元国立大学の敷地に隣接するように暮らしている。近隣住民としてのこのキャンパスのイメージはみどり豊かな庭である。数年前にちょっと離れていた教養課程が合流したので、新しいビルが幾つか建ったのだが、そのイメージが壊れることはなかった。

ひるがえって、勤め先の先端研が置かれている駒場Ⅱキャンパスの変貌振りには口が重くなる。昔の、といっても7～8年前までのこのキャンパスを知っている人が久しぶりに訪ねてくるとみんな迷子になる。それはそうだろう、彼らが知っている建物はほとんど残っていないのだから。新築の研究棟が建設されたお陰で、ここを職場として使うわれわれは、快適な研究環境に恵まれることになり感謝しているのだが、近隣住民の立場に立つと複雑な思いに襲われる。「話が違う」と思っている人も多いだろうな、という気がするのである。外から見える大半の建物が新築に置き換わったこともさることながら、それらの建物が境界に沿うように敷地周辺に配置されているからである。

駒場Ⅱキャンパスの新プランは、中央に目い

っぱい中庭を取り、それを囲んで建物を配置している。ヨーロッパ都市に見られる中庭型街区が広い敷地いっぱい広がっていると考えればいい。その結果、キャンパスの周りを囲む低層の住宅地は無機質なコンクリートの壁を見上げることになった。しかも、当初は、自動車が建物と敷地境界との間に設けられた外周道路を通るように定められた。内は快適だが、騒音、振動、圧迫感などの負担は外にしわ寄せられた。さすがに住民からの抗議で、自動車は建物群の内側を通るようになり、外壁に蔭をはわす努力も始まった。

新法人になったが、施設の整備にどれほど主体性や計画性を発揮できるのかは不透明である。予測しにくい中で、予算が通れば、われわれは大喜びだが、近隣住民にとっては突然始まる工事の騒音やその後の圧迫感などの迷惑の開始を意味することになりかねない。新法人は研究教育成果や大学運営に主体性を発揮するべきであるが、自律度の高い組織として、近隣社会におけるそれを含めた社会的責任も果たさなければならない。建物の景観や周囲との調和にも責任を持った自律した法人に早くなりたいものだ。

(先端科学技術研究センター 大西 隆)



(淡青評論は、学内の職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1293 2004年6月23日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号  
東京大学総務部広報課 ☎ 03-3811-3393  
e-mail kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp  
ホームページ <http://www.u-tokyo.ac.jp/jpn/index-j.html>



東京大学  
THE UNIVERSITY OF TOKYO